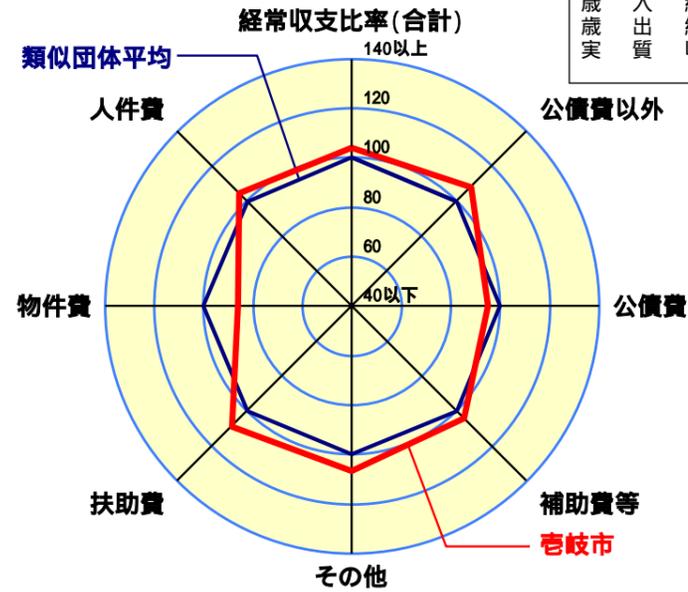
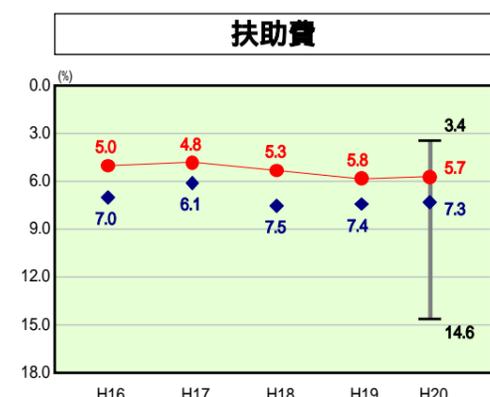
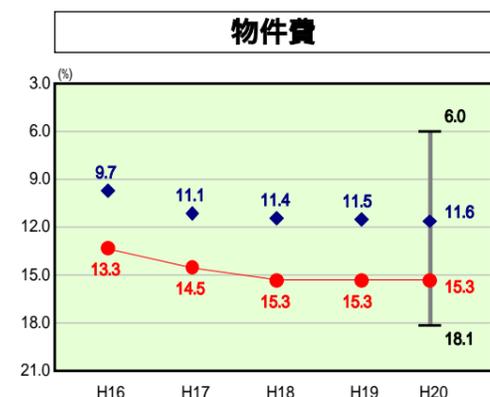
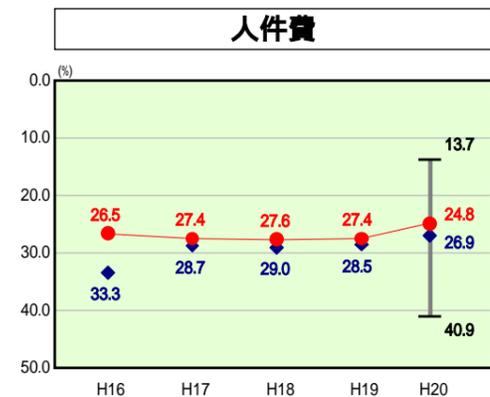
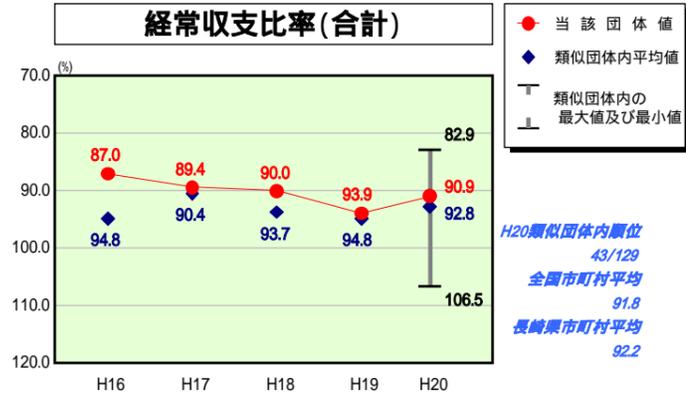


# 歳出比較分析表(平成20年度普通会計決算)

## 経常収支比率の分析

人面標準	口積	30,967人(H21.3.31現在)
歳入総額	規模	138.55 km <sup>2</sup>
歳出総額	実収	23,904,499千円
実質収支		23,020,513千円
		461,312千円



- 本レーダーチャートは、当該団体と類似団体平均値より算出した偏差値をもとにチャート化したものである。(偏差値は平均を100としている。)
- 当該団体の八角形が平均値の八角形より外側にあるほど、歳出抑制等により財政構造に弾力性があることを示している。
- 類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

### 分析欄

【人件費】……人件費に係る経常収支比率は類似団体平均を下回っているが、人口1人当たりの決算額が類似団体平均を上回っており、集中改革プランに掲げた取り組みの実施により改善を図っていく。具体的には17～23年度までの7年間で正規職員100人削減(純減率15.3%)の目標値を設定して定員の適正化に取り組んでいる。また、報酬・手当などの見直し、給料の特例減額を実施しており、今後さらに財政改革を取り組み人件費の削減に努める。

【物件費】……物件費に係る経常収支比率が高い理由として、合併前の旧町がそれぞれ有していた、ごみ処理施設やし尿処理施設、集会施設などの複数の類似施設の管理運営を行っているためである。また、1島1自治体であり施設の広域化ができないことも要因にあげられる。今後、ごみ処理施設、し尿処理施設などの統廃合を進め、コスト削減を図っていく必要がある。

【扶助費】……扶助費に係る経常収支比率は類似団体平均を下回っているが、人口1人当たりの決算額は類似団体平均を上回っており、生活保護費で医療扶助は減少したものの依然高い水準である。

【公債費】……地方債の元利償還金が対前年度比0.7%の微増であり、また公営企業債の元利償還金に係るものなど公債費に類似の経費も増加傾向にあり、人口1人当たり決算額は類似団体平均を上回っている。今後、合併特例事業債による廃棄物処理施設整備等の大型事業を控えており、公債費負担の増加が懸念されることであるが、交付税措置のある有利な地方債の活用や繰上償還等により公債費負担の上昇を抑えるとともに、財政健全化計画及び公営企業経営健全化計画等に則った健全な財政運営に努める。

【補助費等】……補助費等に係る経常収支比率は類似団体平均を下回っている。17年度に補助金検討委員会を設置し、補助金等の整理合理化について提言を受け、18年度予算から反映させており、今後も公益性・必要性・妥当性・効果等について統一的な基準を設け、縮減・廃止等の方策について検討を行い、補助金等の抑制を図る。

【その他】……その他の主なものに繰出金があるが、経常収支比率は類似団体平均を下回っている。今後も特別会計の独立採算の原則に基づき経営努力や経費の節減を求め、基準外繰出金や繰出基準に基づかない繰出金の抑制を図る。

【普通建設事業】……普通建設事業費の人口1人当たりの決算額が類似団体平均を上回っているが、これは合併特例事業の実施によるもので、合併特例事業が合併後10年間に限定されていることからこの期間内での着手が必然となり増加要因となっている。今後も大型事業の廃棄物処理施設整備など合併特例事業を控えており、既存事業の休廃止により公債費比率の抑制や普通建設事業費の抑制に努める必要がある。

